

仮庵祭はイスラエルの人たちが、喉が渇いて苦しんでいた時、モーセが杖をもって打った岩の間から水がほとぼしり出て、人々は渇きを癒された、出エジプト記に記されている出来事を記念する祭りでした。体が覚える渇きは古来どの宗教でも魂が自分を生かす真実の生命を慕い求める欲求の象徴として用いられてきました。詩 42:2 の「涸れた谷に鹿が水を求めるように／神よ、わたしの魂はあなたを求める。」が代表的な表現です。

イエスは様々な渇きを覚えている人に向かって、「わたしのところに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる。」と招いています。「わたしのところに来て飲む」とは、イエスをキリスト、神に等しい者、として信頼することです。また、「わたしを信じる者」は、この福音書が用いている、「わたしの中へと信じる入る者」という表現で、復活させられたイエスに自分の全存在を投げ入れて生きる人のことです。後半の言葉は 4:14 のサマリアの女との対話での言葉「しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」を思い起こします。そこでは、イエスは命のパンであると同時に水を与える者とされ、イエスを信じる者はイエスと一つになることによって、イエスが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出るとされていました。イエスは、「肉体の渇きを癒やす一時のぎではなく、本当に自分が生かされていることが分かり、どんな時も喜び、困難に出会ってもひるまないことができる生きる力と勇気を与える生きた水を与える。そのためには、ただ私を信頼すること、それだけが必要なことなのだ」と話しました。ここでは、その水が溢れ出て外の世界を潤していく様が川の象徴で話されています。それは、私という個人から聖霊が周りに流れ出していくというよりも、キリストの教会に注がれた聖霊が私という人間を通してこの世界へと流れ出していく、というイメージを表現していると思われます。私たちは人を生かす水である聖霊を運ぶ器とされているのです。イエスは「渴いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい。」と話しました。大切なことは、イエスのところに来て飲む、イエスをキリストとして信頼することです。そうするならば、生きた水は私たちの中に入り、私たちを内側から作りかえるのです。生きた水が私たちの中から川となって外に流れ出し、私たちの周りの人々を愛と平和と喜びで満たしていくようになるのです。このイエスの約束を信頼し、イエスと共に歩んでいきたいと思うのです。